



LEICA M11 LEICA M11 MONOCHROM LEICA M11-P LEICA M11-D LEICA M EVI

FIRMWARE-UPDATE 2.6.0

NEW

- 新機能ホワイトバランス調整で初期設定のホワイトバランスの基準値を個人の好みに合わせて調整することができるようになりました。調整値はホワイトバランスのオート設定にもプリセット（フィルムモード）にも適用されます。
- 6ビットコード付きMレンズのレンズ検出機能が拡張され、自動でレンズが検出された場合でもMレンズリストから異なるレンズを使用レンズとして設定することが可能になりました。また、SDカードにユーザープロファイルを保存する際にもレンズリストが保存されるようになりました。
- 防塵機能がライカ専用アプリ「Leica FOTOS」（Ver.5.5.1以降）にて設定可能になりました。

不具合修正

- まれに、画像のダウンロード中にカメラとスマートフォンの接続が突然切断され、その後再接続できない問題が修正されました。
- オートブラケット撮影（オートISO設定時）において、2枚目と3枚目の撮影時に不必要に高いISO値が設定される問題が修正されました。
- 撮影中にカメラを横向きから縦向きに素早く回転させた場合、画像をコンピュータに転送時に画像の位置が正しく調整されない問題が修正されました。

SDカードの使用に関する重要なお知らせ

現在UHS-Iカードを使用時、稀に技術的エラーが起こることがあります。これらのエラーを防ぐため、またカメラを最適な状態で使うためにUHS-IIカードの使用をお勧めします。

ファームウェア アップデート

ライカは、製品の機能の向上や不具合の改善に継続的に取り組んでいます。デジタルカメラでは多くの機能がファームウェアで制御されており、お買い上げの後でも機能を追加したり不具合を改善したりすることが可能です。本製品をユーザー登録された方には、最新ファームウェアのリリース情報を随時お届けいたします。

最新のファームウェアをダウンロードして、本製品をアップデートしてください。また、アプリ「Leica FOTOS」のユーザーは、ファームウェアのアップデート情報をアプリ内で自動的に受け取ることができます。

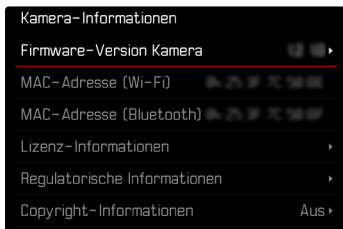
ファームウェアのアップデートは以下の方法で行うことができます。

- 楽にアプリ「Leica FOTOS」から
- カメラメニューから

現在インストールされているファームウェアのバージョンを確認するには

→ メインメニューでカメラ情報を選択する。

- メニュー項目カメラ ファームウェアVerの隣に、バージョンが表示されます。



ファームウェアのアップデート情報、アップデートに伴う改善内容や追加機能、およびカスタマー登録について詳しくは、以下のサイトからご覧いただけます。

club.leica-camera.com

ファームウェアをアップデートする

ファームウェア アップデートを中断すると、カメラに重大かつ修復不可能な損傷を与える可能性があります。

ファームウェアのアップデート中には以下の事項を順守してください。

- カメラの電源を切らない。
- メモリーカードを取り出さない。
- バッテリーを取り出さない。
- レンズを取り外さない。

メモ

- バッテリー残量が十分でない場合は、警告メッセージがモニターに表示されます。バッテリーを充電してからファームウェアをアップデートしてください。
- **カメラ情報**のサブメニューにて国別に承認登録マークや番号を確認することができます。

使用前の準備

- バッテリーを満充電し、カメラに入れる。
- メモリーカードに他のファームウェアが保存されている場合は、必要のないものを消去する。
 - メモリカードに保存されているすべての画像をバックアップしてから、カメラでフォーマットすることをお勧めします。
(注意: データ消失! フォーマットするとすべてのデータが削除されます。元に戻すことはできませんのでお気をつけください。)
 - 内蔵メモリーのデータも事前にバックアップしてください。
- 最新のファームウェアをダウンロードする。
- メモリーカードに保存する。
 - ファームウェアファイルは必ずメモリーカード最上位階層に保存してください。下位階層では読み込みができません。
- メモリーカードをカメラに挿入する。
- カメラの電源を入れる。

カメラのファームウェアをアップデートする

M11 / M11-P / M11 Monochrom / M EV1

- 準備する。
- メインメニューでカメラ情報を選択する。
- カメラ ファームウェアVer.を選択する。
- ファームウェア アップデートを選択する。
 - アップデートに関する情報とメッセージが表示されます。
- バージョン情報を確認する。
- はいを選択する。
 - 「プロフィール情報をSDカードに記録しますか?」という、確認メッセージが表示されます。
- はいまたはいいえを選択する。
 - アップデートが自動的に開始します。
 - 処理中は、LEDランプ（下）が点滅します。
 - 正常に完了すると、終了のメッセージが表示され自動的にカメラが再起動します。

メモ

- アップデート後にカメラを初期設定に戻すことをお勧めします。
- 初期設定に戻した後は、日付、時刻、言語を再設定する必要があります。確認メッセージが表示されます。

カメラのファームウェアをアップデートする

M11-D

- 準備する。
- ファンクションボタンを押したまま、カメラの電源を入れる。
 - アップデート中はがLEDランプとセルフタイマーランプは赤色に点灯し、ファインダーにはUPが表示されます。

ストレージをフォーマット (初期化) する

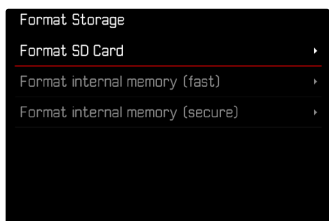
また撮影時の残留画像 (撮影一時情報) がストレージの容量を占めていることがあるため、時々フォーマットすることをおすすめします。カメラに挿入されているSDカード及び内蔵メモリーを別々にフォーマットすることができます。

重要:

- フォーマット中は本機の電源を切らないでください。
- フォーマットするとすべてのデータが削除されます。元に戻すことはできませんのでお気を付けてください。フォーマットすると、マークのついた画像も削除されます。
- データの消失を防ぐため、撮影した画像を外付けハードディスクやコンピューターに定期的に保存してください。

内蔵メモリーを確実にフォーマットする (SECURE ERASE)

内蔵メモリーをフォーマットすることで、長期間蓄積された残存データを削除したり、素早くメモリーを空にしたりすることができます。



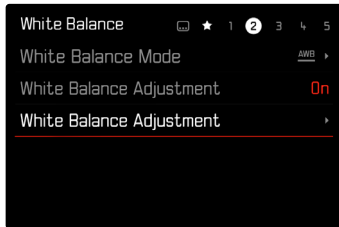
- メインメニューで**ストレージ管理**を選択する。
- **メモリーフォーマット**を選択する。
- **内蔵メモリーをフォーマット (セキュア)**を選択する。
- 確定する。

メモ

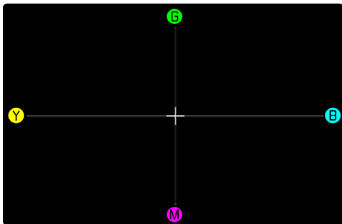
- ・ クイックフォーマットでは既存ファイルに直接アクセスできなくなるのみです。そのため適切なソフトウェアを使用すると特定の状況下でデータを再現することが可能になります。新しい画像によって上書きされた画像は完全に消去されます。すべての画像、個人データ等を完全かつ復元不可能に削除するには、**内蔵メモリーをフォーマット (セキュア)**を選択してください。このプロセスには最長75分かかります。
- ・ パソコンなど他の機器でフォーマットしたメモリーカードを使用する場合は、必ず本機でフォーマットしてから使用してください。
- ・ ライカM11-Dではセキュアフォーマットはライカ専用アプリ「Leica FOTOS」から行えます。

ホワイトバランスを微調整する

本機能では初期設定のホワイトバランスの基準値を個人の好みに合わせて調整することができます。プリセットの基準値も変更されますが、オート設定には適用されません。



- メインメニューで**ホワイトバランス**を選択する。
- **ホワイトバランス設定**を選択する。
 - モニターには以下の表示が現れます。
 - オートホワイトバランスの基本となる色の画像
 - 十字線 (画像中心部)
- 希望する色補正を選択する。
- 確定する。



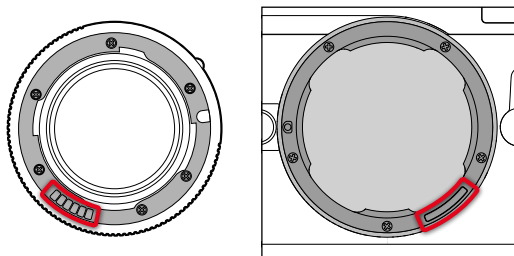
メモ

- より暖色系、寒色系、ニュートラルな色調など、お好みに合わせて調整することができます。調整値はプリセット (**フィルムモード**) にも適用されます。

レンズ検出

6ビットコード付きのMレンズをカメラに装着すると、マウント部にある6ビットコード検知センサーがコードを読み取り、レンズの種類を検出します。

- 読み込んだ情報は、画像データの最適化処理に利用されます。画角の大きいレンズや開放絞りを使用する場合などは、画像の縁が暗くなりやすいですが、6ビットコードを読み取ることで補正されます。
- 読み込んだ情報は、画像のExifファイルに記録されます。拡大した画像データを表示する際には、レンズの焦点距離も追加表示されます。
- 測光システム補助機能によって、カメラは算出された大まかな絞り値を画像のExifファイルに記録します。レンズの6ビットコードの有無や、アダプターを装着したMレンズであるかどうか、レンズタイプを入力したかどうかには影響されません。



6ビットコード付きライカMレンズ使用時

6ビットコード付きライカMレンズを使用する場合のみ、レンズの種類は自動的に検出されます。マニュアル操作での入力はありませんが、希望する場合には異なるレンズをマニュアル設定できます。6ビットコード付きライカMレンズを装着してカメラの電源を入れると、直前の設定にかかわらず、レンズ検出機能が「オート」へ自動的に切り替わります。

6ビットコードなしライカMレンズ使用時

6ビットコードの付いていないライカMレンズを使用する場合は、レンズタイプをマニュアル操作で入力する必要があります。

- メインメニューで「レンズ検出」を選択する。
- 「マニュアル M」を選択する。
- 装着したレンズをリストから選択する。
 - レンズ名とともに、焦点距離、絞り値、製品コードが表示されます。

メモ

- レンズの製品コードは通常、被写界深度目盛の反対側（固定リングの下側）に刻印されています。
- 2006年6月より前に製造されたMレンズには6ビットコードが付いていないため、マニュアル M のサブメニューリストに掲載されています。それ以降に製造されたMレンズは6ビットコードがついているため、自動的に検出されます。
- トリ・エルマー M 16-18-21 f/4 ASPH. 使用時は、焦点距離の情報を読み込めないため、撮影画像のExifファイルには記録されません。Exifファイルに記録したい場合は、マニュアル操作で入力してください。
- トリ・エルマー M 28-35-50 f/4 ASPH. 使用時は、焦点距離の情報が読み込まれるため、対応するブライトフレームが正しく表示され、画像データの最適処理も行われます。マニュアルのサブメニューで表示されるリストにはメニューシステムの制約により、製品コードが11625のものしか含まれていませんが、製品コードが11890と11894のものも使用できます。製品コードが11890または11894のレンズを使用する場合も、サブメニューで表示されるリストから11625を選んでください。

ライカRレンズ使用時

ライカM用レンズアダプターを使用してRレンズを装着する場合は、レンズタイプをマニュアル操作で入力する必要があります。ライカRレンズを装着してカメラの電源を入れると、直前の設定にかかわらず、レンズ検出機能が「マニュアル R」へ自動的に切り換わります。表示されたリストからレンズを選択します。

→ メインメニューで「レンズ検出」を選択する。

→ 「マニュアル R」を選択する。

→ 装着したレンズをリストから選択する。

レンズリストをカスタマイズする

必要なレンズのみを選択して、レンズリストをカスタマイズすることができます。カスタマイズしたリストはユーザープロフィールに保存され、プロフィールを切り替える際に使用できます。

→ メインメニューで「レンズ検出」を選択する。

→ 「マニュアル M」または「マニュアル R」を選択する。

→ 「Mレンズリストに追加」を選択する。

- レンズリストが表示されます。

→ セレクターボタンで希望するレンズをオンまたはオフに設定する。

メモ

- 設定は使用しているレンズタイプごとにのみ可能です。Rレンズの場合はRレンズリスト、Mレンズの場合はMレンズリストを使用してください。

レンズ検出機能をオフにする

レンズ検出機能はオフに設定することができます。レンズの特性を生かすため、自動補正（DNG およびJPG） 希望しない場合に役立ちます。

→ メインメニューで **レンズ検出** を選択する。

→ **オフ** を選択する。

メモ

- ただしこの機能をオフにした場合はExifデータ（Exchangeable Image File Format） に使用レンズ情報は記録されません。